

## 2013建設リサイクル技術発表会・技術展示会の概要

(主催) 建設副産物リサイクル広報推進会議、中部地方建設副産物対策連絡協議会

(後援) 国土交通省、3R活動推進フォーラム

今年度は、「建設技術フェア2013 in 中部」と同時開催の形で、「2013建設リサイクル技術発表会・技術展示会」を開催した。

### 【技術発表会】

日 時：平成25年10月24日(木) 13:00～16:20

場 所：名古屋市中小企業振興会館 メインホール(7F)

参加人数：392名



左：来賓 国土交通省大臣官房技術参事官(総合政策局担当) 清水 亨氏

中央：主催者 建設副産物リサイクル広報推進会議 会長 北橋 建治

右：主催者 中部地方建設副産物対策連絡協議会 委員長 梅山 和成

## ■特別講演

20年に一度の伊勢神宮の式年遷宮にあたる今年、皇學館大学 学長 清水 潔氏をお招きして、「式年遷宮と文明の循環」と題して講演をいただいた。

また、がれき処理コンソーシアム副代表であり、東北大学大学院工学研究科 教授 風間 基樹氏より、「震災廃棄物処理による発生土、副産物の有効利用への取組み」をテーマに、震災廃棄物利用の取組みを報告いただいた。

### 「式年遷宮と文明の循環 ～永遠性 清浄性 原初の甦り～」

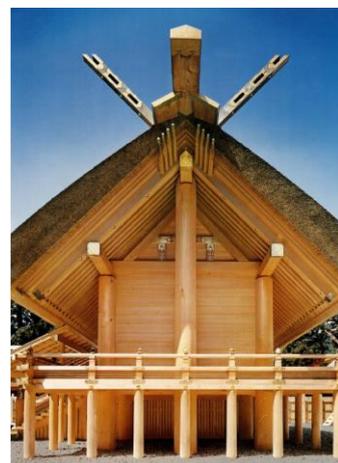
皇學館大学 学長 清水 潔 氏

式年遷宮は、天武天皇の勅慮に発し、朱雀三年の宣旨により制度化がはかられ、持統天皇の御世に第1回遷宮が行われた（690年内宮、692年外宮）ものであるが、そこには、天武・持統天皇朝による国家の永遠性や神祇尊重・清浄思想の高揚という思想的傾向があることを、『日本書紀』や神宮の古記録等の歴史的資料から解釈された。

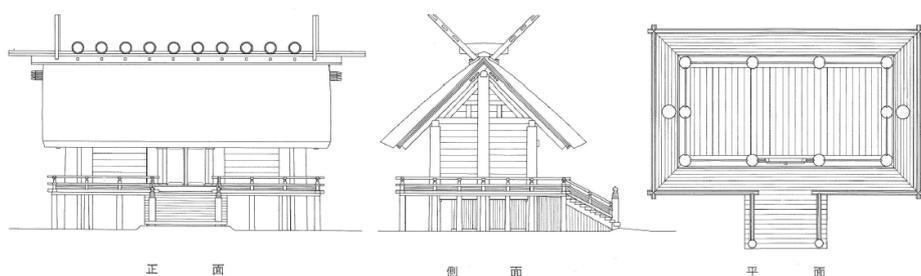
神宮社殿の特徴として、柱は丸柱の掘立式で棟持柱を有し、屋根は切妻式の萱葺で、千木や鯉木が部材として用いられ、弥生時代以来の高床穀倉建築の様式を今日に伝えた造りとなっていることを、豊富な歴史的資料や伊勢神宮の写真、構造図等から説明いただいた。

戦国時代には遷宮中絶の時期もあったが、近代になっても煉瓦やコンクリートを使用することなく、古来と変わらぬ造営方法を続けている。

およそ1,300年に亘る、20年に一度の式年遷宮は、技術の伝承はもとより、正に永遠性、清浄性、原初の甦りを実現し、文明の循環を果たすという意義を持つものである。



皇大神宮正殿 東側面



皇大神宮正殿 正面図、側面図、平面図（現在）

「鯉木」九本



外宮の側面

## 「震災廃棄物処理による発生土、副産物の有効利用の取組み」

がれき処理コンソーシアム 副代表

東北大学大学院 工学研究科 教授 風間 基樹 氏

### 1. 震災廃棄物処理の現状

東日本大震災発生から約1年半が経過した平成24年8月時点での、岩手・宮城・福島3県のガレキ推計量は約2760万トンであったが、翌25年8月に環境省は推計値の見直しを行い、処分が必要な量は1608万トンと下方修正した。

ガレキ処理の流れは各処理区で基本的には同じであるが、分別方法が少しずつ異なるために、最後に残るふるい下残渣は処理区によって大きく異なり、徹底的な分別をしているサイトもある。

岩手・宮城では、予定通り平成25年度内に処理が完了する見込みであるが、福島は26年度にずれ込む見通しである。

### 2. 震災廃棄物処理の方針

関東大震災では後藤新平が帝都復興院・総裁としてガレキ処理の陣頭指揮をとり、阪神大震災では首相主導による復興対策本部が指揮をとった。

ガレキの処理は被災地復旧・復興のためにまずやらなければならないことであり、また環境省はできる限りガレキの有効利用を図ることが基本である、との方針を打ち出している。

建設業界においても昨今は、震災ガレキをインフラ整備のために有効利用することが大切との認識が普及している。

### 3. 復興事業用建設資材不足への対応

復興事業が本格化するにつれて、建設資材不足の問題が顕在化してきており、東北地方以外の圏外からも調達しなければならない状況となっている。

調達を効率的に行っていくためには、各産業間のシナジー効果をどう発揮させるか、また関係省庁や自治体といった行政サイドのシナジー効果をどう発揮させるかが、ポイントとなる。

建設資材のうち、土砂については3県で3500万トンが不足すると見込まれているが、災害廃棄物混入土砂や津波堆積土砂の再利用を含め、需要と供給のそれぞれをうまくマッチングさせる土砂管理マネジメントが必要となる。

### 4. 瓦礫コンソーシアムの活動

瓦礫コンソーシアムは震災ガレキのうち、コンクリートがれき、ガレキ焼却残渣、津波堆積土砂の3つについて、有効利用のための技術開発を行い、さらに静脈産業の拠点を形成することを目的とした産学連携組織として発足した。

代表は東北大学の久田教授、副代表を風間教授が務め、幹事には大林組や鹿島建設、また住友大阪セメントや昭和コンクリート、JFE スチールが参加している。関係各位の御支援・御協力をお願いしたい。



## ■技術発表

建設リサイクル技術発表会第2部として、以下の4団体の皆様より建設リサイクルや環境に関する事例報告を發表いただいた。

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| (1) 日本道路株式会社中部支店    | レインボーエコブロック Biz    |
| (2) ボンテラン工法研究会      | 泥土リサイクル技術『ボンテラン工法』 |
| (3) 株式会社竹中道路        | I H式舗装撤去工法         |
| (4) 一般社団法人泥土リサイクル協会 | 高含水土砂と産業副産物の有効利用技術 |



## 【技術展示会】

平成25年10月24日(木) 10:00~17:00

10月25日(金) 10:00~16:00

於「建設技術フェア2013 in 中部」環境・リサイクルエリア

以下の29団体により、環境・リサイクルに関連する展示が行われた。

環・リー 01	戸田建設(株) AWARD-Sapli工法
環・リー 02	(株)メイホーエンジニアリング 土壌の有害重金属等の不溶化技術、工場排水等の水質浄化技術
環・リー 03	(一財)日本建設情報総合センター 建設副産物・発生土の有効活用、ITを活用した設計・施工の効率化
環・リー 04	内田産業(株) 超大型モノレールによる運搬技術
環・リー 05	既設モルタル再生工法研究会 バスク工法(既設モルタル再生工法)
環・リー 06	前田道路(株)中部支店 マイルドパッチ
環・リー 07	日本道路(株)中部支店 超保水性インターロッキングブロックレインボーエコブロック Biz
環・リー 08	ボンテラン工法研究会 泥土リサイクル技術「ボンテラン工法」
環・リー 09	クールワールド振興会 クールアイランド舗装(CI舗装)
環・リー 10	鐵鋼スラグ協会 電気炉スラグ普及委員会 電気炉スラグ製品(コンクリート用電気炉酸化スラグ骨材 他)
環・リー 11	(株)加藤建設 パワーブレンダー工法
環・リー 12	(一社)泥土リサイクル協会 泥土再資源化技術E3(イーキューブ)システム

環・リー 13	(株) 佐藤渡辺 中部支店 瓦舗装 (サーモスカラー)
環・リー 14	大有建設 (株) 工事騒音の低減・施工環境の改善技術製品
環・リー 15	新日鉄住金エンジニアリング (株) NSエコパイル
環・リー 16	常盤工業 (株) 中部支店 最軽量型木質育成基盤材 ウッディーグリーン
環・リー 17	(株) 竹中道路 名古屋支店 IH式舗装撤去工法
環・リー 18	玉野総合コンサルタント (株) フィールドミュージアムシステム～玉野流パークマネジメントの展開～
環・リー 19	(株) ドーコン スマートフォンによるプローブパーソン調査システム
環・リー 20	杉江製陶 (株) 建設汚泥を取り入れた多孔陶管セラダクトAシリーズ
環・リー 21	(株) パワーコンサルティング スクモベストコート「熱抵抗機能型塗料」
環・リー 22	国土交通省 中部地方整備局 道路部 ITSスポットサービス～安全で円滑なドライブを目指して～
環・リー23 外1	中日本高速道路 (株) 名古屋支社 高速道路の持続可能社会形成をめざして
環・リー 24	建設副産物リサイクル広報推進会議 建設副産物リサイクル広報推進会議の会員及び活動の紹介
環・リー 25	中部地方建設副産物対策連絡協議会 中部地方建設副産物対策連絡協議会の活動の紹介
環・リー 外2	古河ユニック (株) ユニック中部販売 (株) 古河ロックドリル (株) 電動式ミニ・クローラクレーン、エキセントリックリッパー
環・リー 外3	日立造船 (株) 放電破碎工法
環・リー 外4	昭和造園土木 (株)・丸成林 (株) タフグリーン
学校	豊田高専 環境都市工学科 すべて見せます!! 豊田高専における水質・環境研究



出展ブースに対する厳正な審査の結果、以下の2団体に、中部地方建設副産物対策連絡協議会委員長より優秀賞が授与されました。

授与者 中部地方建設副産物対策連絡協議会 幹事長（中部地方整備局 企画部長）

【優秀賞】

日本道路株式会社 中部支店  
内田産業株式会社



審査の様子



表彰状授与（左から 中部地方建設副産物対策連絡協議会幹事長、日本道路(株)中部支店、内田産業(株)、建設副産物リサイクル広報推進会議会長）



出展の様子（日本道路(株)中部支店）



出展の様子（内田産業(株)）